

東京都豊島区発「にしそがも創造舎」

文・大谷真奈美 写真・井伊杏

地域に開かれた演劇の場で、生きる力を伝える



「子どもに見せたい舞台」
今年は「ドリトル先生と動物たち」だよ！

上:左から陽さん、友井さん、佐々木さん、米原さん、一色さん、渋谷さん、蓮池さん。演劇だけでなく、多くのアーティストの作品を紹介することにも力を注いでいる。

愛知県で障がい者の社会進出を実践する「中華茶房うんぶう」から東京に戻ったオイラ。今回出会ったのは、豊島区の廃校を利用して演劇など幅広いアートイベントのプロデュースを行う「にしそがも創造舎」を運営するNPO法人アートネットワーク・ジャパン(ANJ)代表の蓮池奈緒子さんだ。「開かれた職場」から「開かれた演劇の場」へ、オイラの旅はつながつていったんだ。



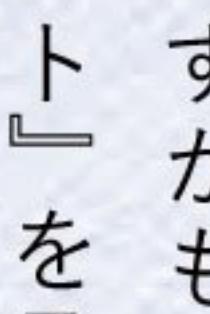
古い中学校が劇場に生まれ変わる

西巣鴨の駅を出てすぐ、オイラがたどりついた「にしそがも創造舎」。緑の多い広い校庭と校舎——どう見ても普通の中学校だけど、あれ、大きな体育館から動物の格好をした人が出てくるぞ、どうなってるの？「びっくりさせたわね、クロツチ。あれは舞台に出演する役者さん。体育館を稽古場として使っているの。ここは200人を収容する劇場でもあるのよ。私たちは豊島区と協力しながら閉校した中学校を拠点に演劇やアートを地域の皆さんに発信して

いるのよ」と蓮池奈緒子さんは笑いながらオイラを出迎えた。
「エ、どうして中学校が劇場になつたの？」「私は大学で演劇を学び、卒業後も劇団に関わって国内外の演劇作品を制作する仕事をしてきました。2000年には当時のボスと一緒にNPO法人アートネットワーク・ジャパンを立ち上げたのだけど、まずは拠点が必要でしょ？ 当時、一緒にNPO法人アートネットワーク・ジャパンを立ち上げたのだから、廃校となつた中学校を民間と協力して活用したいと考えていた豊島区の皆さんと出会い、ここ旧朝日中学校を無償でお借りしたのが2004年8月のこと」
でも、どんな人がここを利用しているの？「世界的な舞台演出家の公ドロシーはブリキや案山子の仲間たちとたくさんの困難に出会うけれど、けつしてあきらめずに旅を続けるでしょ。『子どもに見せたい舞台』では主人公たちが皆それぞれに困難に出会いながら勇気を持つて前進する、『生きる力』を教えてくれる点が共通すると感じているわ。これからも『にしそがも創造舎』は幅広くアートの力で地元に貢献していきたい、同時にここで培った活動を全国の皆さんと共有していきたいと思っているよ」。オイラの旅も同じだね、これからも、たくさん仲間とつながり、生きるエネルギーを広げていくぞ！」



NPO法人アートネットワーク・ジャパン(ANJ)
代表の蓮池奈緒子さん。

過去と未来をつなぐ
アートプロジェクト

館独特的の広い空間を気に入ってくれたの。でも、稽古場だけでなく劇場にしたい、ここで舞台を観てもらおうと夢が広がって、助成金や稽古場運営での収入で舞台機構を整え、ようやく2005年から『にしそがも創造舎』が創立されたよ。蓮池さんの厚意でオイントをスタートしたのよ。



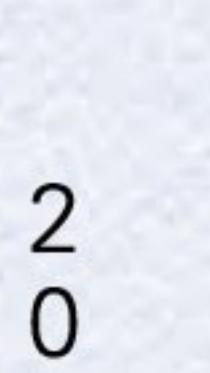
撮影: 飯田研紀

クロツチ
たいち

◎2012年「ドリトル先生と動物たち」
公演期間: 2012年8月10日~16日
会場: あうるすばっぷ
(豊島区立舞台芸術交流センター)

「にしそがもアート夏まつり」では演劇を観るだけでなく、登場する動物キャラクターを考えるワークショップなど、子どもたちが参加する楽しさを知る機会を大切にしている

さんも交流でき
皆さんも大切な皆
さんも交流でき
そしてご高齢の皆
さんも交流でき
つ学校という場所で、未
来に生きる子どもたち、
そしてご高齢の皆
さんも交流でき

演劇の力を
全国に広げたい

るアートプロジェクトを行うことが、ここで活動する上で重要だと考えるようになつたのよ」。

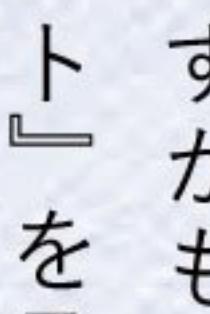
「演劇の力というのはね、少し難

しくいうと「日常生活に内在する問題を気づかせる」こと、そして生きる力を人々に与えることだと

思ふの。『オズの魔法使い』の主人公ドロシーはブリキや案山子の仲間たちとたくさんの困難に出会い

けれど、けつしてあきらめずに旅を続けるでしょ。『子どもに見せたい舞台』では主人公たちが皆それぞれに困難に出会いながら勇気を持つて前進する、『生きる力』を教えてくれる点が共通すると感じているわ。これからも『にしそがも創造舎』は幅広くアートの力で地

元に貢献していきたい、同時にここで培った活動を全国の皆さんと共有していきたいと思っているよ」。オイラの旅も同じだね、これからも、たくさん仲間とつながり、生きるエネルギーを広げていくぞ！」

過去と未来をつなぐ
アートプロジェクト

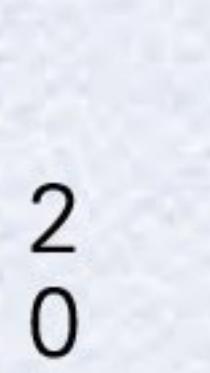
ねえ、衣装も豪華で役者さんたちが演奏したり、楽しくて時間を忘れちゃつたよ。蓮池さんの厚意でオイントをスタートしたのよ。



◎2012年「ドリトル先生と動物たち」
公演期間: 2012年8月10日~16日
会場: あうるすばっぷ
(豊島区立舞台芸術交流センター)

「にしそがもアート夏まつり」では演劇を観るだけでなく、登場する動物キャラクターを考えるワークショップなど、子どもたちが参加する楽しさを知る機会を大切にしている

さんも交流でき
皆さんも大切な皆
さんも交流でき
そしてご高齢の皆
さんも交流でき
つ学校という場所で、未
来に生きる子どもたち、
そしてご高齢の皆
さんも交流でき

演劇の力を
全国に広げたい

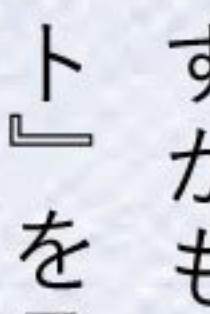
るアートプロジェクトを行なうことが、ここで活動する上で重要だと考えるようになつたのよ」。

「演劇の力というのはね、少し難しくいうと「日常生活に内在する問題を気づかせる」こと、そして生きる力を人々に与えることだと

思ふの。『オズの魔法使い』の主人公ドロシーはブリキや案山子の仲間たちとたくさんの困難に出会い

けれど、けつしてあきらめずに旅を続けるでしょ。『子どもに見せたい舞台』では主人公たちが皆それぞれに困難に出会いながら勇気を持つて前進する、『生きる力』を教えてくれる点が共通すると感じているわ。これからも『にしそがも創造舎』は幅広くアートの力で地

元に貢献していきたい、同時にここで培った活動を全国の皆さんと共有していきたいと思っているよ」。オイラの旅も同じだね、これからも、たくさん仲間とつながり、生きるエネルギーを広げていくぞ！」

過去と未来をつなぐ
アートプロジェクト

ねえ、衣装も豪華で役者さんたちが演奏したり、楽しくて時間を忘れちゃつたよ。蓮池さんの厚意でオイントをスタートしたのよ。



◎2012年「ドリトル先生と動物たち」
公演期間: 2012年8月10日~16日
会場: あうるすばっぷ
(豊島区立舞台芸術交流センター)

「にしそがもアート夏まつり」では演劇を観るだけでなく、登場する動物キャラクターを考えるワークショップなど、子どもたちが参加する楽しさを知る機会を大切にしている

さんも交流でき
皆さんも大切な皆
さんも交流でき
そしてご高齢の皆
さんも交流でき
つ学校という場所で、未
来に生きる子どもたち、
そしてご高齢の皆
さんも交流でき